

# 一般会計予算に対する討論

平成31年度一般会計予算は、3月定例会最終日に可決されました。この議決に先立ち、同予算に対する討論が行われ、4人の議員から賛成意見が、2人の議員から反対意見がありました。その概要は次のとおりです。

## 賛成

●平成31年度予算は、消防本部庁舎建設事業や幼児教育・保育無償化による子育て支援などにより、前年度に比べ5.2%の増となった。予算の柱である5つの政策に沿って意見を述べる。都市づくりでは、平成34年度の供用開始を目指し、道の駅を整備する。地域振興の重要な拠点として、本市ならではの魅力的な施設とするよう要望する。産業の活性化では、全国に先駆けて、外国人技能実習生受入監理団体の設立を支援する。的確な人材確保体制が構築されると期待する。地域福祉社会の実現では、就労を希望する高齢者の4割強が就労できていない中、求人ニーズが高い業種の講習会を開く。受講したことを求人先に伝え、就労率向上が図られることで、元気な高齢者が活躍できる綾瀬となることを期待する。子ども・女性政策では、病児保育の実施事業所が確保できた。仕事を続けながら、安心して子どもを産み育てられるよう、開園に向けた取り組みを要望する。都市の質の向上では、仮設風呂の購入やマンホールトイレの整備など、大規模災害を教訓に、本市の備えを着実に進めていると評価する。人口減少が進み、厳しい財政運営が予想されるが、予算化された

●市長は施政方針で、元気な高齢者には、地域活動を通して健康を保つとともに、地域を支えていただき、子どもたちには、健やかに成長して将来の綾瀬を支える担い手になってほしいと述べた。元気高齢者に関する施策では、多様な自発型社会参加の全市拡大を目指し、活動に消極的な方の仲間づくりなどを行う。高齢者の自発的な参加活動が拡大し、地域の担い手となることを期待する。歩き方講習を行い、活動量計を貸与する歩行ポイント事業は、健康寿命の延伸に有意義な事業と評価する。子ども・女性政策では、病児保育施設の整備費用を一部助成する。働き方が多様化する中、病後児も受け入れられる施設は社会ニーズも高く、関係機関と調整を進め、平成32年4月の開設をお願いする。幼児教育の推進では、新たに音楽の歌い聞かせを取り入れた講座や保育士への研修などを行う。幼児期の非認知能力育成は、本市の将来を託す子どもたちに向け、綾瀬らしい着眼点を持った取り組みと評価する。放課後児童クラブの環境改善では、民設クラブの移転や改修を支援する。仕事を続けながら、安心して子ども

もを産み育てられる環境づくりと評価する。市制50周年に向け、持続可能な都市づくりが着実に進展することを期待し、本予算に賛成する。  
(公明党)

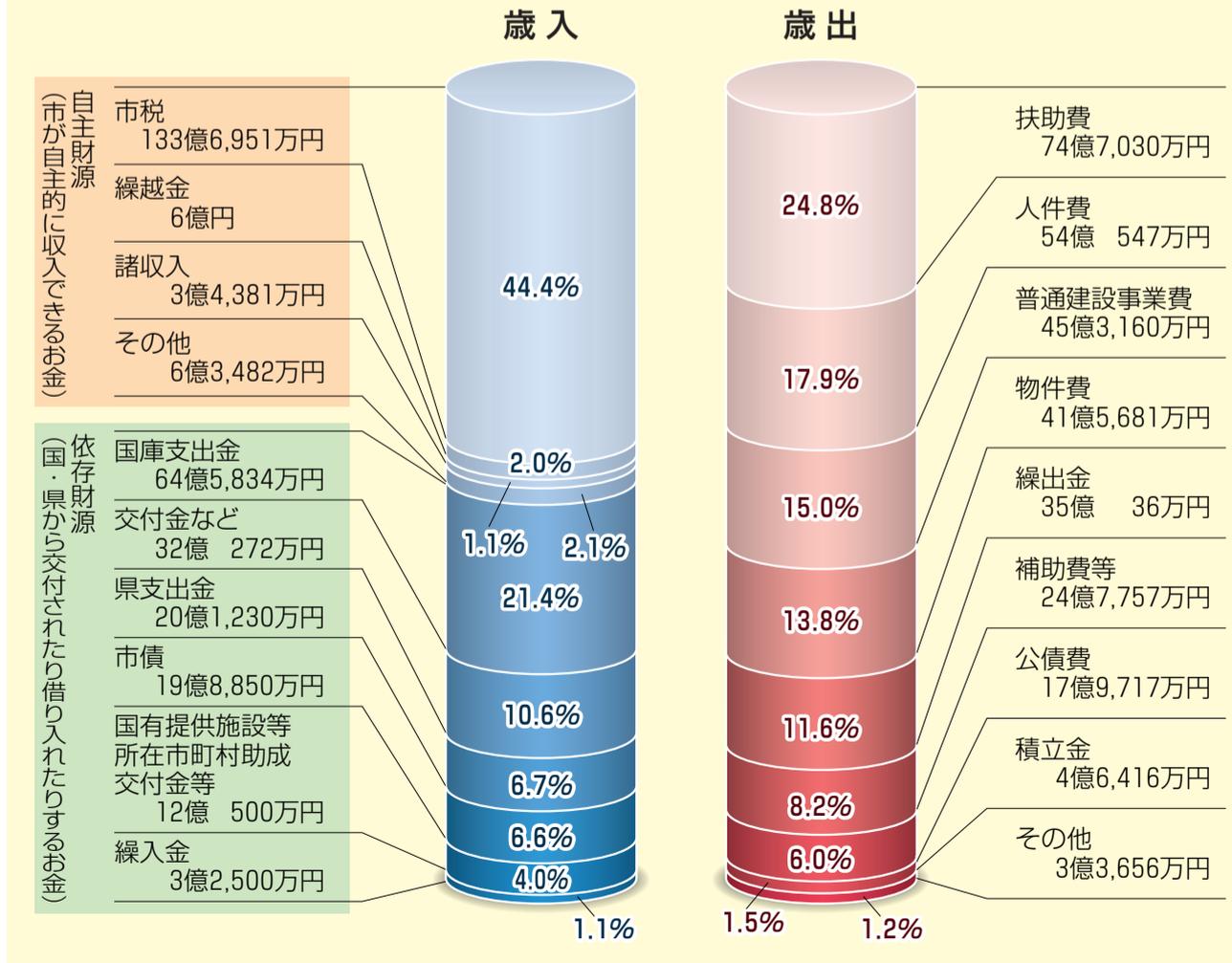
●人口減少による人手不足は製造業を中心に顕著であり、外国籍労働者の受け入れ体制整備が、急務と考える。市内中小企業でも人手不足は深刻であり、現状打破のため、商工会が外国人受入監理団体として認可を受けるための支援を行う。ものづくりのまちとして、市と商工会、企業が、顔の見える関係を築いている本市の強みを生かした取り組みと評価する。外国籍市民への支援では、市役所などに多言語での施設案内や電子掲示板の設置や、小・中学校への音声翻訳タブレット端末の導入

など、言葉の壁の解消に取り組んでいる。多文化共生の取り組みを重ねることで、外国籍市民がより一層活躍できる環境が整い、優秀な外国籍の方々が本市で働くことを期待する。地域社会の担い手となる元気高齢者施策では、高齢者の居場所づくりや多様な自発型社会参加事業などを実施する。目久尻文化ゾーンを整備は、ふるさと綾瀬を感じる場を創出することで、観光のみならず、ウォーキングの聖地として歩行ポイント事業と連動させるなど、大きな可能性を感じる。超高齢社会を前向きに捉え、健康寿命延伸を施策に反映させるなど、他に先んじた取り組みと評価する。元気高齢者の活躍や外国籍市民との共生の確実な遂行を期待し、本予算に賛成する。  
(あやせ未来会議)

### 平成31年度各会計の予算規模

会計名	予算額	対前年度比	
		増減額	増減率
一般会計	301億4,000万円	15億円	5.2%
特別会計	国民健康保険事業	△2億2,800万円	△2.5%
	下水道事業	3億9,300万円	12.0%
	深谷中央特定土地画整理事業	△8,500万円	△23.9%
	介護保険事業	1億4,800万円	2.9%
	後期高齢者医療事業	500万円	0.5%
	計	193億4,000万円	2億3,300万円
合計	494億8,000万円	17億3,300万円	3.6%

### 一般会計予算歳入・歳出の状況



表中に記載の数値は、表示単位未満を四捨五入しています。

●平成31年度予算には、本市が持続可能な都市であり続けるため、都市の魅力を引き出し、活力を増強する施策が盛り込まれている。本市の魅力を高める施策では、(仮称)綾瀬スマートインターチェンジの開通が平成32年度上半期と迫る中、道の駅を整備する。本市の顔となるとともに、地域産業の活性化に直結する施設であり、着実に事業を進めるよう願う。目久尻川流域を地域の魅力として一体的に活用することを目指し、目久尻文化ゾーン構想を策定するとともに、案内板やトイレを設置し、みはらし広場を整備する。文化財の周知と集客力の向上に努め、多くの方が来訪することを期待する。活力の源となる産業の活性化では、綾瀬ブランド商品を見本市に合同出展することで商品開発力の向上を図るとともに、専門機関のコンサルティングにより経営改善や生産性を向上に取り組む。農業分野でも、トウモロコシのブランド化や6次産業化への支援など、高付加価値化とブランド力強化を図る。いずれも厳しい財政状況が予想される中、歳入増加につながる取り組みと評価する。消防新庁舎の建設やマンホールトイレの整備、綾瀬スポーツ公園の日の安全・安心を確保する施策と評価し、本予算に賛成する。  
(新政会)